

冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク 2021年度 事業計画 (案)

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の影響は収まっておらず、子どもの育ちを取り巻く環境も厳しい状況が続いている。冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワークの事業についても、多くの遊び場活動が中止・休止のまま新年度に入った。

しかし本来は、こんな時だからこそ遊びの大切さ、とりわけ外遊びの重要性を伝える実践・発信が必要だと言える。仙台市も昨年度から「子どもの遊び環境の充実」の施策をスタートさせ、みどりの基本計画には「プレーパークの拡充」も位置づけられるようになった今、長く子どもの遊び場・遊び環境づくりに取り組んできた経験も活かしながら、しっかりと役割を果たしていきたい。2023年に仙台で開催される「全国都市緑化仙台フェア」の機会も活かした発信も見据えたい。

そして、海岸公園冒険広場を拠点とし、他団体とも連携しながら沿岸の震災被災地域周辺での活動もしっかりと継続する。遊ぶ、楽しむ、という視点から地域の持つ魅力に気づき、活かす取組みを引き続き展開していきたい。

以上を踏まえ、2021年度事業として、以下①～⑥を重点に取り組む。

①海岸公園冒険広場の着実な運営と、周辺も含めた展開

再開後4年目の海岸公園冒険広場について、指定管理者としての着実な運営を行う。また周囲とも積極的に連携し、引き続き被災地域の再生に貢献できることを目指していく。

コロナ禍のなか屋外環境の大切さが見直されていることも踏まえ、「自然と親しむ場」「自由に遊びを創造できる場」といった震災前からの役割にさらに力を入れると共に、周辺を含めた賑わいや交流の創出、震災を伝えることで防災に資する役割を果たしていく。

- ・指定管理者として、海岸公園冒険広場の着実な運営
- ・沿岸部の他の活動・施設とも連携しての賑わい・交流の創出
- ・震災の「記憶」の保存・記録・発信や、経験を活かした事業による防災への貢献
- ・冒険広場および周辺地域の魅力を引き出す、生き物調査・みどり再生活動
- ・震災を伝えるほか、体験活動等も含めた学校の授業等への協力

② 震災被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり

若林区六郷・七郷地域・宮城野区田子西地区を中心にしたプレーカーを活用した巡回型の遊び場活動については、新型コロナウイルス感染症の状況も見ながら慎重に取り組んでいく。移転した人たちが新たにコミュニティを築いている地域、被災した現地での再建を目指している地域の双方で、交流の生まれる場づくりを目指す。六郷・七郷地域では、交

流サロン「縁側倶楽部」も連携して実施する。

- ・東日本大震災被災地域周辺での遊び場活動（東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金事業）
- ・上記活動の場を中心とした、交流サロン事業等の展開（みやぎ地域復興支援助成金事業）

③ 地域住民による遊び場づくり活動の促進・支援

子どもの遊び環境づくりに関心を持ち、自ら動く人が増えることを目指し、②とも連動させながら、「何かできないか」と考えている地域住民等のはじめの一步の取組みを積極的に支援していく。また、すでに住民が取り組んでいる遊び場については、その運営が軌道にのるための支援を続ける。

- ・地域住民等の遊び場づくり活動のはじめの一步の積極的支援
- ・住民発意による遊び場運営の促進・支援

④ のびすく若林と連携した、乳幼児親子への遊びの大切さの発信

仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく若林」の日常の運営と、地域連携事業などを通して、乳幼児親子へ遊びの大切さや外遊びの魅力を伝えていく。

- ・のびすく若林の日常運営のなかでの、ふるさと広場も活用した外遊びの機会の創出
- ・「出前のびすく」の継続的な展開と、若林区内各所でのあそび場活動との連携

⑤ 子ども・子育て支援計画の策定も受けた、調査・提言・実践活動

各自治体では「子ども・子育て支援計画」が新たな計画期間に入ったが、「遊び」「遊び場」の記述を拡充させた自治体もあるので、それがしっかりと施策の実施につながっていくよう、具体的な動きを確認すると共に、調査・提言など行っていく。

仙台市においては、同計画の「子どもの遊び環境の充実」施策がスタートすると共に新たなみどりの基本計画に「プレーパークの拡充」も策定されたことを受け、市の取り組み状況をみながら、事業実施にも積極的に参画していく。また、「全国都市緑化仙台フェア」の機会も活かした発信についても検討していく。

- ・子ども・子育て支援計画・みどりの基本計画の新計画期間の施策動向の確認
- ・仙台市が実施する遊びの環境づくり実証実験業務の受託実施
- ・「全国都市緑化仙台フェア」の動向の確認と取り組みの検討

⑥ 組織運営基盤づくり

2016年度末に策定した中期計画の実現に必要な基盤づくりとして、事務局体制の強化と、前年度新たなにスタートした事業部門の新たなスタッフ体制の強化に取り組む。また、遊び場も含めた人材育成の方向を見出していく。

ミッションを実現するための中長期ビジョンについては、5年目に入るため次期計画の検討を行う。